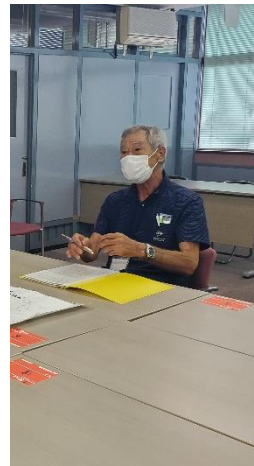


大子町 シルバー人材センター事務局長  
Bさん (七十代)



避難の重要性

当時区長をやっていた。住民のためにね、何が  
できるかってところからスタートしたんですけ  
ど。

私はね、ちょうど一ヶ月ぐらい前に県の防災危  
機管理センターの講習を聞きに行っていたんで  
す。だから昼雨降り出して避難命令、避難指示が  
出てすぐ家内の車と私の車で、高台にある南田気  
の集会所に避難したんです。そこから非常に強烈  
な雨になってきて、二時頃とにかくカッパ着て。

実は私、岐阜県の生まれなんです。木曾川のす  
ぐ近くに住んで。記憶に焼き付いているのは五  
歳の時の台風で、積んであった木が流れて、木曾  
川沿いに立ってた二階建ての家にどんどんぶつ  
かり出した。で、家もろとも流れるのを目の前  
に見たんですね。そういう記憶があったもんだか  
ら。二時半頃からカッパ着て長靴で入って、全世  
帯を夕方まで回った。避難をしてほしいと。そう

いう流木だとかってというのはすぐ近くに木材の  
積んであった場所があるんで、ものすごい大量の。  
これ流されたら大変だな、と。だからまずそこか  
らスタートしたんですね。袋田のコミュニティー  
センターって避難場所もあったんですけど、増水  
したら危ないからこっち来なさいと高台に。とこ  
ろが避難しない人がいるんですよ。いやこんなと  
ころ水なんか来ないよと。私が一番最初に避難し  
てその後にはどんどん来てくれたんだけど、世帯わ  
かってましたから、誰か来てないかってわかりま  
すよね。で、来ない人のところを今度もう一度歩  
き出し。そしたら三時過ぎ頃にはもう水がついて  
行けなくなっちゃったんです。電話も繋がらない  
とにかく皆さんもね二階がある人は二階に上が  
って、どうしようもないんでね。それである人か  
ら通達来て。でも行きようがないんですよ。それ  
でレスキューを頼んでもらって、朝、たぶん三時  
頃ポートでここまで運んでもらって、集会所に來  
て。だから一人も人命はね、なくさないで済んだ。  
やはり何が大切かっていうとね、人命なんですよ。  
誰か災難にあった人いないかどうかいろいろ情  
報を聞かなきゃなんないんで、集会場ですつと一  
晩起きてました。

一晩明けて目にした光景とやるべきこと

朝四時十五分頃だったかな。雨が上がって、懐

中電灯を持って見回りいったんです。そしたら懐  
中電灯で照らしたら鉄橋落ちてた。いやこれは大  
変だ。朝一番僕が夜明けになってやらなきゃいけ  
ないことは何かっていうのを思ったわけ。主要  
道路全部ふさがっちゃってる。橋も渡れない。要  
はここは陸の孤島になったんです。救急車も消防  
車も何も入れない、だから漏電起きたら消防自動  
車入ってくれないでしょ。まず一番朝起きてやら  
なきゃいけないのが、道路一ヶ所、通行でき  
るようにする。私知り合いにパワーショベル持つ  
てる人が一人いたんですね。その人をお願いして  
一ヶ所開けてもらったんです。それをまずやつ  
た。

その後自分の家に家内と戻った。水はおかげさ  
まで早く引いた。床上我が家は四十から五十セン  
チ近く。家内がドア開けた途端に言った言葉は  
「ヘドロ臭い、もう臭くてこの家には住みたくな  
い」。僕もそう思ったんですけど。ということは四  
十一世帯、全てそういう思いだろうな、というこ  
とで、うちはまずほつといて全世帯に回ったんで  
す。みんな無事でおられたんでね。本当にほつと  
したんですけれども、僕の呼びかけに反応しなく  
て自宅にいて本当震えてたよ、いい経験したよ、  
なんていう人もたくさんいてね。いやいや本当区  
長の言う通りにすればよかった。そういう言葉も  
いただいたんです。なにせ震えていたっていうの

は、木が流れてぶつかる音がするんですね。そういう何て言うかな、不安感と言うんですかね、恐怖感、そういうのを家にいて味わったわけです皆さん。だから次回からは必ず早めに避難するということをご皆さんから幾度言っていたいたんですね。今度こういうことがあったら困りますけどね、あった場合にはもう人命、すぐ避難する。みんなに約束してもらったんです。

それからやっぱり家の中の、片付ける問題がある。片付けと床下、みんなほとんどが床上ですから。一世帯が床下だけだったんですけれど、全部床上。それから全壊した家が二軒あったな。

空き家だからよかったですけれど、木材が流れてきて全て流された家もある。だからその流木の恐ろしさ、水も恐ろしいんですけど木材。だから鉄橋も木材で流れた。当時私は視察でいろいろ県議だとか、町長だとかいろんな人が来て連れて回ったんですけども、人災だって言ったんです。実はね、新道の工事をするにあたって、竹を切っちゃったんですよ。だから竹があればそこに物が引っかかって水の流れは変わってくるんですけども、なくなっちゃったもんでこつちに全部来ちゃったんですよ。だから人災だよって僕は言った記憶があるんですけどね。

### 自宅に戻るために

それからやはり皆さんのために何ができるか。

まず物資ですね。皆さんから必要な物資を聞いて、役場にお願いで毛布だとか、そういうものをいただいで集会所にあげる。だからやはり後の対応が、いかに早く皆さんが自分の家に戻るか。集会所とか避難所って寝れないんですよ。私は二ヶ月、避難所で生活しているんですけどね。

自宅に戻るためにどういう対応するか。ボランティアにどんどん入ってきていただきましたから、まず一件ずつ何をしてもらいたいか。いつごろボランティアに入ってもらいか聞いて、段取り作って。まいんにボランティアの方が常駐していたわけです。社会福祉協議会に先頭に立ってやっていただいたんですけどね。本人たちは自分たちの片づけでそういうのできないから。

それで今度片付けるって、特に一番大変だったのは畳です。一枚の畳が水を含んで四人で持たないと持ち上がらない。その置き場をまず確保、空き地はいっぱいあるからね、持ち主にお願いで貸してもらおう。今度は役場環境センターと打ち合わせして、これをここにためるからいつまでに引き取って（とお願いした）。

その家を今後使うってのはどういうメンテナンスをしたらいいかっていうことなんです。でね、床下大事なんです。床下にへドロが入っちゃってますでしょ。床下の、柱も水につかっていますから。そのまんま置いておきますとシロアリの温床

になっちゃう。それからカビ。だから乾燥させて消毒するっていうのが床下は大事。じゃあそんな消毒の仕方は誰が知ってますか、っていうことですね。それを常総市で水害がありましたね。あときに経験された方が来ていただいでたんです。それでお願したんですよ。どういう消毒の仕方をしたらいいか、誰もわかんないわけですよ。私も分からない。それでいろいろお願いして我が家に全員集まってもらってデモンストレーション、うちの床を剥がして（実際に）やり方を皆さんにお伝えして、それである程度自分たちだけできていうように。噴霧器を買ってきて、それでやっていただいた。本当このボランティアの方たちにどれだけお世話になったか。感謝ですよ。皆さんとその後いろいろお話をしたんですけども。やっぱりこの世の中ないことが起きるんですよ。災害時はまずいち早く避難するこれが大事ですね。とにかく避難です。だから無駄だと思わないことね。人命ってことを考えたときに、無駄ではないですから。